

## V73a ペルーの32 m アンテナ計画の進行状況 (II)

Ishitsuka Jose、井上 允、大石 雅寿 (国立天文台)、坪井 昌人 (野辺山宇宙電波観測所) 宮澤 敬輔 (元国立天文台)、石塚 睦 (IGP)、藤沢 健太 (山口大学)、春日 隆 (法政大学)、堀内 真司 (SKA)

南米ペルーのアンデス山脈に海拔3370 mの盆地に衛星通信用の32 mのアンテナを電波望遠鏡として再利用を検討をし始めてから2年間は経った。アンテナと付帯設備は現在ペルー民間電話会社 Telefonica del Peru の所有であるがペルーの地球物理研究所 (IGP) に移転を進める上で、初期段階ではメタノール・メーザが受信出来る6 GHz帯の受信機を設置しモニタリングとサーベイを行う予定である。6 GHz帯の受信機は現在野辺山電波観測所で準備されてこの秋には完成の予定である。本計画ではペルー側では地球物理研究所が主体となりペルーの様々な大学・研究機関に参加してもらい、日本側でも大学等の協力を得将来共同研究を行い、オープンな国際的な観測機関を目指している。今年の3月にペルーの地球物理研究所と国立天文台との間で研究協力協定が結ばれ、ペルー側でも今後アンテナを運営が出来る組織の形成を進めている。

本講演では本計画の詳細又は現状について紹介する。